

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	育てたい資質・能力	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点(手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価A S D	分析と改善点
方針・挑戦し続けるたくましさの育成 郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学び ②地域との協働 ③生き生きと働ける学校づくり ④「なりたい自分」への挑戦	調和のとれた生徒の育成 心(みつめる)体(やりきる)知(もとめる)	花ひらく優しさのもと、多様なものの見方・考え方を大切にしたい 積極的に発揮できる力	生きる力を育む授業づくり なりたい自分づくりの推進 家庭・地域との協働	① 先行的な学びの推進	タブレット等を活用して取り組める予習を実施し「予習は授業の中で考えを深めることにつながっている」と言える生徒を、10%増やす。	B	○予習は「学習に見通しと意欲をもつための大切な過程」と認識し、取組を進めた。取り組んできた予習について「学習の土台をつくる予習」「自分の考えをつくる予習」に分類できることがわかってきた。今後も効果的な予習内容や方法を考えていく。
					① 個に応じた学びの充実	個別最適化の学びを推進すると共に、ICTフィールド実践校として活用モデルを構築する。	A	○教師は情報提示だけでなく一人一人の学習状況の把握と個別支援のためにICTを活用した。生徒も、一人学びや情報収集、学習記録の蓄積等にICTを活用することができた。今後、特別教室での環境整備が進むとよい。
					① SDGS 学習の推進	外部資源を活用した授業づくりと学んだ内容を発信する場の工夫を推進する。	B	○校外研修の設定や外部講師を招いた活動等、生徒が主体的に学べる場を設けた。SDGsやキャリア教育に関わる学校の取組について、保護者アンケートでも肯定的な回答が90%を超えた。今後は、生徒によるアウトプットの場の充実を図る。
					② 「なりたい自分」の実現に向けた取組	なりたい自分とつないだ日常生活づくりを推進する。また、三者懇談で実施するプレゼンを基に、なりたい自分を学校と家庭で支援する。	A	○約80%の保護者が三者懇談でのプレゼンを「なりたい自分」に向けた効果的な手段として評価した。「なりたい自分」に向けた日々の取組の価値や行事を通じた成長について生徒自身が自覚し、プレゼンで伝えることができるよう「一人一人のよさを認め合う時間の確保」や「教師による価値づけ」を今後も大切にする。
					② 居場所づくりと教育相談の充実	スクールカウンセラー、スクール相談員等と連携を進め、居場所づくりや教育相談を工夫して実施する。	A	○カウンセリングの場の確保や校内支援センターの設置等、多様な生徒の支援を進めている。生徒アンケート項目「学校は安心して生活したり相談したいことができる場所になっているか」に対して、肯定的な回答をした生徒は90%を超えた。今後も共感的な人間関係の中で、居場所づくりや充実した教育相談を推進する。
					② 多様性を尊重した生徒会活動の充実	多様性を認め合う学校活動を推進することにより、学校が楽しいと言える生徒を10%増やす。(5月:70%)	B	○行事や生徒会活動を通して、自分から行動する力や仲間と協力してやりきる力が伸ばせたと感じている生徒が96%であった。互いを認め合う学校風土の醸成を進める。
					③ 地域に貢献できる活動の推進	生徒会を中心とした「地域への貢献活動」や「地域に向けた発信」を位置づける。	B	○生徒会を中心とした地域の清掃活動や能登半島地震による被災者の方への募金活動等を実施した。また、本校の伝統である立志太鼓も地域での発信ができるようになってきた。今後、生徒が創っていく活動に地域貢献の視点をもたせると共に、地域への発信を進める。
					④ 関係機関や関係者と連携した危機管理の徹底	アレルギー対応等に対する研修を定期的実施すると共に、迅速で組織的な対応をする。	A	○危機管理については研修の充実と即時複数対応を基本とし取組を進めた。アレルギー等の研修では、外部の専門家から学び機会も位置づけた。保護者アンケートでは約90%が肯定的な回答である。今後も誠実かつ迅速な対応を続ける。
					③ PTAと連携した情報機器利用のルール作り	生徒会とPTAとで連携をし、情報機器の使い方やルールについてそれぞれの立場で主体的に考える。(保護者アンケート・懇談会の活用)	A	○生徒会が、情報通信機器の使い方について考える通信を定期的に発信した。また、第3日曜日「家庭の日」を、親子でSNS等の使い方について考える場になるよう活動を進めた。(PTAによる学習動画を紹介・生徒会通信記載のQRコードによるアンケート等)

学校運営協議会における主な評価内容

- 個への対応が望まれる時代である。「なりたい自分」づくりの支援と個への対応について引き続き尽力してほしい。
- 「家庭の日」を活用し、親子で情報機器の活用について話す場は貴重である。子どもたちがよりよく生きる力につなげたい。
- 今後も教育の中で、様々な経験ができる場づくりと生徒が発信する場づくりを進めてほしい。